

熊本での地震、度重なる水害と、自然災害に心が痛んだ夏であった。被災された方にお見舞いを申し上げたい。

ところで、昨今は高度成長期よりも長期間にわたる景気拡大が続いているらしい。流れに上手く乗った AI 関連の企業で給与が大幅に上昇した一方で、多くの人は収入増の実感が無いという。景気拡大期間は長い、その間の経済成長率は高度成長期に比べると大幅に低い。さらに好況を享受しているのが成長分野に関連した一部の人のみであり、格差が生じていると言える。

政府も企業も、成長分野に集中した投資を行うとしている。国としての経済力を高めるためには悪くない話ではあるが、支える人がいるから成長分野への投資が可能になることを忘れてはならない。飼料畜産業界など、支える側には人々の生活に欠かせない分野が多数存在する。

成長分野に携わる人が偉くて、そこにいない人が下駄という人がいる。もちろんそれは大間違いで、トップがご執心なところに乗っかれば何でも許されると勘違いする輩まで出る。しかし、そういう輩に限って上手いかないと責任逃れするものである。偉大なトップでも間違いは犯す。

下支えする、いわば非成長分野において、従来のインフラの維持等、見逃されがちな分野のフォローもぬかりなくやってほしい。港は放置すれば浅くなってしまうので、定期的な維持/管理を行わなければ、円滑な穀物の輸入が困難になることを一例として申し上げておく。

そして、支える側にも成長分野への投資の成果が行き渡るようにすることは、政治やリーダーの重要な仕事である。それを指摘された全員が前向きな発言をするが、言動一致を確実に実行してほしいと切に願う。

ところで、今回の為替セミナーでは、通常ではあまり聞くことにできない為替相場決定の理論の説明があった。穀物の相場の説明でも共通すると思うが、相場動向を追いつけると基本的なことが置き去りにされることがあり、「今更こんなこと聞けないなあ」ということを曖昧なままにしてしまうことがある。今回の理論の説明は、基礎に立ち返るという意味で、私には新鮮に映った。今号で掲載した要約版も上手く活用いただけたら幸いである。